

## 興民義塾について

吉田 光良 調

興民義塾(こうみんぎじゅく)は、大正時代の初めに、南小渕の資産家中村慶吾氏が「郷土の中心となる有為の青年を養成する」目的で設立した夜間定時制の私塾である。

最初は浅野の禅林寺の本堂で始まったが、翌年には中村氏出身の南小渕貴船に完成した新校舎に移転し、浅野はもとより遠路から通学する青年たちにも教育を施した。多くの人材を輩出したが、伊勢湾台風襲来2年後の昭和36年8月に解散閉校した。

昭和45年には同窓生が中心となって、浅野公園東に記念碑が建てられた。

開塾・・・大正6年9月15日 浅野禅林寺の本堂の一部を借りて開塾

大正7年5月18日 南小渕字貴船に新築した塾舎に移転

創設者・・・中村慶吾氏(南小渕出身) 中村氏は、当初南小渕で不動産業を手伝っていたが、その後名古屋に出て証券会社等を設立。大成をなす。これからは有為な青年を養成する必要があると考え、金1万円と建物1棟、その他備品等一切を提供。出身地南小渕貴船に開設。中村氏は、名古屋市の東山動物園開園に伴う用地の一部を提供したことで知られている。

塾長・・・初代塾長は法学士安藤秋三郎氏(丹陽町重吉出身)、最後の塾長は元名古屋市教育長真野常雄氏(北小渕出身)だった。安藤塾長は、名古屋から通いながらもつぱら教鞭をとっていた。

修業科目・・・人倫道德、歴史、国語、経済等で、主として教本「興民集」を使用して行われた。

修学年限・・・2年 毎週 火、木、土の3日間。午後5時30分から午後9時まで。

入塾資格・・・高等小学校卒業またはこれと同等の学力を有する17歳以上の青年であれば誰でも入塾可能。月謝は無料。遠く江南市草井や西春町あたりからも青年が集まった。

卒業生・・・千数百名の卒業生を出している。中から県会議員や市会議員を輩出するなど多大の成果をあげている。

機関紙・・・「興民」、大正6年8月第3種郵便物認可。第1号は1部1銭5厘で発刊された。月1回の発行が原則で、閉塾後も昭和50年頃まで発行され続け、号数は300号を超えている。

その他・・・浅野公園東側の児童クラブ内に、同窓生が協力して建てたという立派な記念碑がある。

